



ほら、

このほんおもしろかったよ

ねん なつごう
2012年 夏号

読書活動推進標語

わくわく、どきどき。
だから、わたしは、ほんがすき



『空のおくりもの』（えほん）

マイケル・キャッチプール／文

アリソン・ジェイ／絵 亀井よし子／訳

ブロンズ新社



くも ぬの
雲をつむいで、布をおってくらしている
しょうねん
少年がいました。少年は、ひつようなぶん
だけ、雲を糸にして布をつくります。雲はそら
のおくりもの、とうたいながら。

ところがおうさまは、どんどん布をつくれと
めいれいしました。すると、雲があめ
ふらなくなり、たいへんなことに…。

『かくかくかくくん』（えほん）

新井洋行／作・絵 学研教育出版

かくくんは、ましかく。

ほんのかたちもましかく。

かくくんが、かくんかくんと、あそびに
いくと、であうものも かくんかくんと
ころがっていきます。

しかくいものは、かくかくと、また
くっついて、ましかくに！



『トンネルをほる』（えほん）

ライアン・アン・ハンター／文

エドワード・ミラー／絵

ほるぷ出版

じめん ^{した} ^{なに}には何がある？アリヤ
モグラの ^{つく}作ったトンネル？
どうぶつ ^{ひと}動物だけじゃなく、人もトンネル
をほります。

人がさいしょにほったトンネル
は、^{みず}水のためだったそうです。

まちは、^{くるま} ^{ちかてつ}車や地下鉄、いろんなものがとおるトンネルがあります。

^{やま}山のなか、^{かわ}川の下や、^{うみ} ^{そこ}海の底にも。どうやってほるんでしょうね？

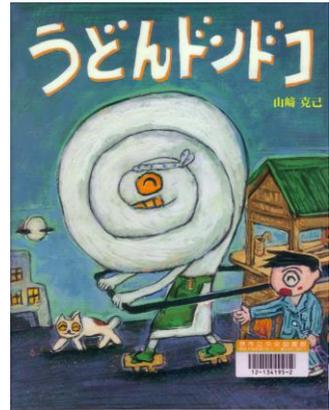


『うどんドンドコ』（えほん）

山崎克己／作 B L出版

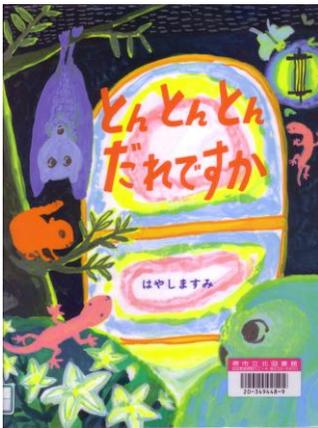
よるのまちで、はんじょうしている
うどんやさんドンドコは、はたらきもの。
どんなひとからのちゅうもんにもおうじ
て、いせいよく、どんどん、うどんをつ
くれます。

ひょうばんのカレーうどんは、どんな
あじだったのでしょうか。



『とんとんとん だれですか』（えほん）

はやしすみ／作 岩崎書店



なにかがおこりそうなくらいよる
です。

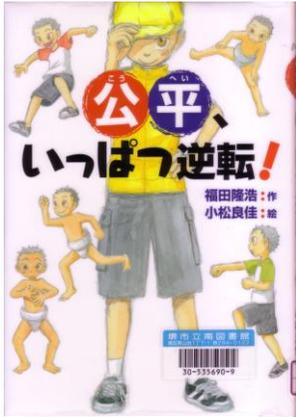
こんやは、いったいどんなおきや
くさんがたずねてくるのでしょうか。

とんとんとん…ドアにうつる、あ
やしいかげ。そのしょうたいとは？

つぎつぎと、よそうもしないおき
やくさんがたずねてきますよ。

『公平、いっぱつ逆転!』 (913)

福田隆浩／作 借成社



公平は気が弱くてめだつのがきらい。
転校初日も「いじめっこがいたらいやだなあ」と、足取りは重かった。

ところが、学校に行くと、なぜか「公平は空手のたつじん」ということになっていて、そのうえ、いじめグループと対決することになる。

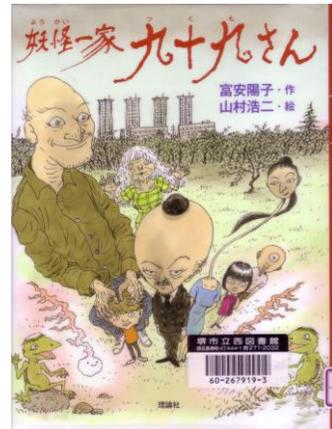
『妖怪一家九十九さん』 (913)

富安陽子／作 理論社

ヌラリヒョンこと九十九さんは、かしくくて考えぶかい、妖怪の親玉。

九十九さん率いる妖怪一家は、七人なかよく団地の地下12階に住んでいます。

ところが、ゆっくり闇夜の散歩を楽しむ間もなく、つぎつぎと難題に立ちむかうことに。



『盗まれたおとぎ話 少年冒険家トム I』(933)

イアン・ベック／作 静山社

むかし、おとぎの国の森はずれに、やさしいお母さんと、7人兄弟が住んでいました。

ある冬、6人の兄さんたちは冒険の旅に出たまま、だれもかえってきません。

末っ子のトムも、兄さんたちをさがしに出発することにします。

お母さん、僕、きっと帰ってくるから！



『いのち運んだナゾの地下鉄』(913)

野田道子／作 毎日新聞社



「あわてんと、ゆっくりおりてください。地下鉄は、動いています！」という駅員さんの声。炎に追われた三人姉妹は、手をつないで階段をかけおります。

はたして電車はくるのでしょうか。1945年3月、大阪大空襲の夜に走った「救援電車」のおはなしです。

『見て、さわって、不思議を学ぶ！』

貝の図鑑&採集ガイド』(484)



池田等／著 実業之日本社

50年間、地元の海で貝の調査研究を
続けてきた著者による、貝の図鑑です。

日本の海で見つかる貝のかたちや様子が、
きれいな写真とイラストで、よくわかります。

採集や標本のつくりかたもっています。
これをもって、ちかくの海辺に出かけ、貝を
じっくり観察してみませんか？

『桜守のはなし』(627)

佐野藤右衛門／著 講談社

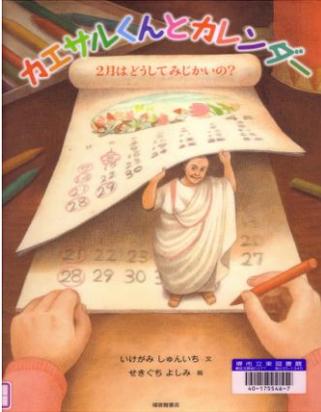
お花見がすんで、花が散ってからが、
桜守の出番だそうです。「桜を見るん
やったら、じぶんが好きな桜を1本だ
け決めて、春だけやなく、夏の桜、秋の
桜、冬の桜と1年とおして置いていって
ほしいんです」と京都弁ではなす佐野
さん。日本だけではなく、世界各地の
桜を見守って、おいそがしです。



『カエサルくんとカレンダー』 (449)

いけがみしゅんいち／文

福音館書店



なぜ、2月はみじかいの？なぜ、30日にちと31日の月つきがあるの？

いったい、だれがきめたこと？

カレンダーにまつわる、いろいろなきもんに、カエサルくんが、わかりやすくこたえてくれます。

ほかにもいろいろ

☆えほん☆

『くまくと6ぴきのしろいねずみ』

クリス・ウォーメル／作・絵

徳間書店

『東北んめえものうた』

長谷川義史／著

佼成出版社



なか
『中をそうぞうしてみよ』

佐藤雅彦+ユーフラテス／著

福音館書店

☆よみもの☆

『ダメ犬ジャックは今日もごきげん』(933)

パトリシア・フィニー／作

ピーター・ベイリー／絵

徳間書店



『雨あがりのメデジン』(963)

アルフレッド・ゴメス=セルダ／作

鈴木出版



『とっておきのはいく』(913)

村上しいこ／作

PHP研究所

☆ちしきのほん☆

『つぎ、なにをよむ?』(019)

秋山朋恵／編

借成社

『動物大せっきん カエル』(487)

マーク・W・モフェット／著 ほるぷ出版

『身のまわりのふしぎサイエンス』(404)

岩崎書店

さかいしりつとしょかん
堺市立図書館

へいせい ねん がつはっこう
平成24年6月発行